

稲作と地域特産で大型複合

「丹波黒大豆」や「山の芋」などの特産で知られる兵庫県篠山町。粟野勝浩さん(35)は、同町で稲作と地域特産の大型複合経営を行う。稲作は借地や作業受託を増やして規模を拡大。同時に「丹波篠山産」のブランド力を生かし、黒大豆とヤマノイモを産直する。三つの作物で一年の労働配分と連作障害の防止を考え、家族経営からの脱皮も目指している。

稲刈り中心の作業受託

粟野さんの経営の柱は、稲作。稲刈りが中心の作業受託が十三軒、ほか借地を含めて六・一五畝で米をつくり、四月から約五十平方

経営規模

重点を置いているという。大規模経営を目指したの

が、近年は米価が低迷

PR用のパンフレットを

う、うねの間には紙を敷いて草の発生を抑えている。水稲、黒大豆、ヤマノイモの栽培は、一年の間で労働力の配分が可能だ。

ていることも大きい。年間備した。コスト計算をこれの減価償却費が六百万〜七からやろうとした六年前、百万円に上るため「今ある正さんが他界。当時四十畝の機械を生かすよう、稲作に一度ゼロに戻し、本人と妻、母の家族三人で担える現在の規模にした。

篠山町農林課によると、同町は、ほ場整備がほぼ一〇〇％行われており「担い手の高齢化と兼業化が進む中で作業受託の要望は高

黒大豆とヤマノイモは「丹波篠山産」のブランド力を生かし、「ゆうパック」による産地直送を行う。十二年ほど前から始め、十二月のお歳暮など贈答用が中心だ。人気なのはヤマノイモが二割と黒大豆が三割で四千三百円(送料別)のセット。昨年は単品の販売も含めて、個人や法人に約千箱を売った。

「ゆうパック」で産地直送

を徐々に増やしてきた。転作田では、ヒマワリなど換金作物も栽培する。

粟野勝浩さんの経営概況

経営規模:	水稲6.15畝、黒大豆86畝、ヤマノイモ65畝	作業受託13軒、ヤマノイモ65畝
農業機械:	トラクター3台、コンバイン2台、乾燥機4台	田植機3台、用石2台、歩行機6条、石2台
労働力:	本人、母、妻	
所在地:	兵庫県多紀郡篠山町細工所156-1	

家族経営からの脱皮へ

銘柄生かし黒大豆とヤマノイモ産直

三台や田植え機とコンバインが二台ずつ、乾燥機四台など、大規模稲作を行う機械がそろっ

は十五年ほど前から。亡き父の正さんと借地や作業受託を増やし、農業機械も整

同封したことで、宣伝をしながらも口コミで顧客が広がった。だが「消費者との信頼関係があって初めて続けられるもの。どこに出しても恥ずかしくないものをつくらなければならない」と、品質の

ヤマノイモは三月後半に植え付け、十月末に収穫。黒大豆は六月に種をまいて十一月〜十二月に収穫と、いずれも水稲の田植え(五月)や稲刈り(八〜九月)と重

農業経営に限らず「経営は、収益性と社会性と継続性だ」と粟野さん。単年だけではないか金をもうけるのではなく、「農業をいかに継続するか」の経営を考え、収益の確保を図る。

年間通した雇用も考慮

今後は町内で要望の高い作業受託を増やしていく予定だ。そのためには「家族経営では今の規模が限界。今後は年間を通じた雇用を



大規模稲作と地域特産の複合経営に取り組む粟野さん

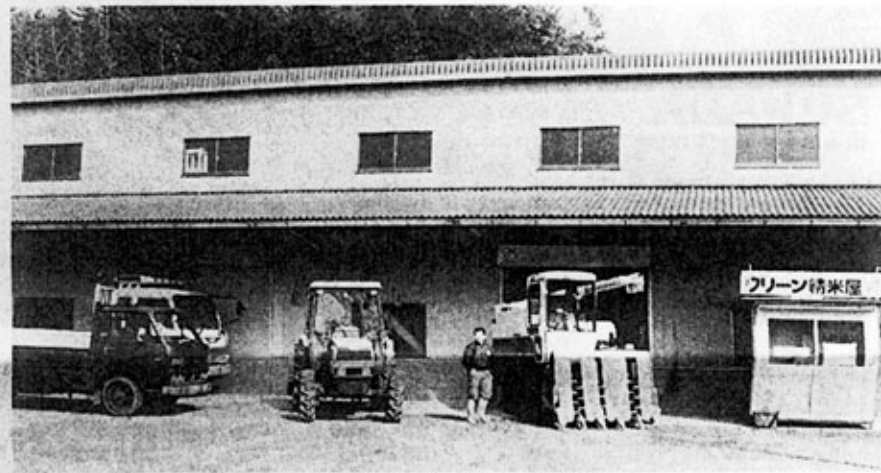


保持には気を使う。

どの箱も同じ品質になるよう、箱詰めは粟野さん以外行わない。栽培もヤマノイモでは植え付けを普通より二週間ほど早め、種手を大きくして良品を生産。また除草剤の使用を減らすよ



行い、効率の良い経営を行っている」と話す。



大型農機が収まる農業倉庫